



自分の声でインターネットにアクセスする「Vポータル」0570-0033-03に電話をかけて、インターネット上にある音声コンテンツを、「はい」や「いいえ」という声で操作しながら楽しむというものなのだ。そして、この新しいサービス「Vポータル」はいままさにインターネット黎明期のような様相を呈し、さまざまなVポータル専用コンテンツが生まれようとしているのだ。ただし、そこは新しいサービス。まだ、誰もどのようなコンテンツがキラーになるのか、正解をつかめないでいる混沌とした状況だ。ここVポータル企画道場では、そのようなカオスの世界にあえて身を投じる、勇気ある「道場破り」たちを紹介していく。

Vポータル企画道場!

大阪の雄、登場!

今回紹介する“道場破り”スーパーステーションは大阪ではちょっとした有名企業だ。というのも、同社は平成4年の設立当時から広帯域ネットワーク実験の企画立案から、CSテレビ放送用番組の制作、インパクでの松下電器パビリオン「スマイレニアム」の制作、ウェブ上でのコミュニティ構築まで幅広いメディア上でのデジタルコンテンツ製作を手がけ、確たる実績を挙げてきたからだ。総務省TAOプロジェクトから発展したデジタル・ムービー『天(ティン)』2041年 オキナワの見た夢』の企画を担当するなど、新しいメディアや技術を活用したコミュニケーションデザインと、そのビジネス化を活発に行っている。

同社がひっさげるVポータルコンテンツは「HOP CLUB」(右ページコルフル参照)。これは、Vポータルに電話をすることで、同名のアイドルグループ(右ページ写真)のプロフィール、日記など、好きなコンテンツが聞けるというものだ。今のところ、ストレートなアイドルコンテンツで、これといった特徴もないように思えるが、これには大きな理由がある。

今月の道場破り!

【スーパーステーション】

大阪は中之島に城を構える、なにわのベンチャー。官学も巻き込んでアプリケーションの開発、実証プロジェクトを推進する西の雄だ。ウェブだけでなくCS放送、BS放送などのコンテンツも作っていて、多メディア的な視点からVポータルコンテンツを開発できる点が強力な武器だ!

キレイな取締役
田崎友紀子さん
スーパーステーション、Vポータルプロジェクトの総責任者。インターネット黎明期からマルチメディアコンテンツ、デジタル映像作品をプロデュースしてきた経験と、広いネットワークを活かし、Vポータルに殴り込む。

期待の若手
中里哲さん
大阪人なのに千葉ロッテをこよなく愛する、スーパーステーションの切り込み隊長。深夜枠の野球中継とVポータルを結びつける、彼の個人的趣味に特化したコンテンツを企画しているとか、いないとか。



寡黙なスーパーバイザー
徳岡まきさん
スーパーバイザーなのに黙っていてもダメだろうと思うなかれ。普段は寡黙でも、頭が回り始めると、言葉が止まらなくなるのが特徴。宇宙一の加護垂依ファンを自称し、スーパーステーションの精神的支柱(かもしれない)。

とにかくまずはUPする

「まず、ベーシックなものをサービスとして公開してみる。そこから、ユーザーの反応を見ながら、いろんな視点を取り入れて、もっともVポータルに適したコンテンツとはどんなものかを考えていく予定です」と語るのはコンテンツソリューションチームの中里哲さんだ。

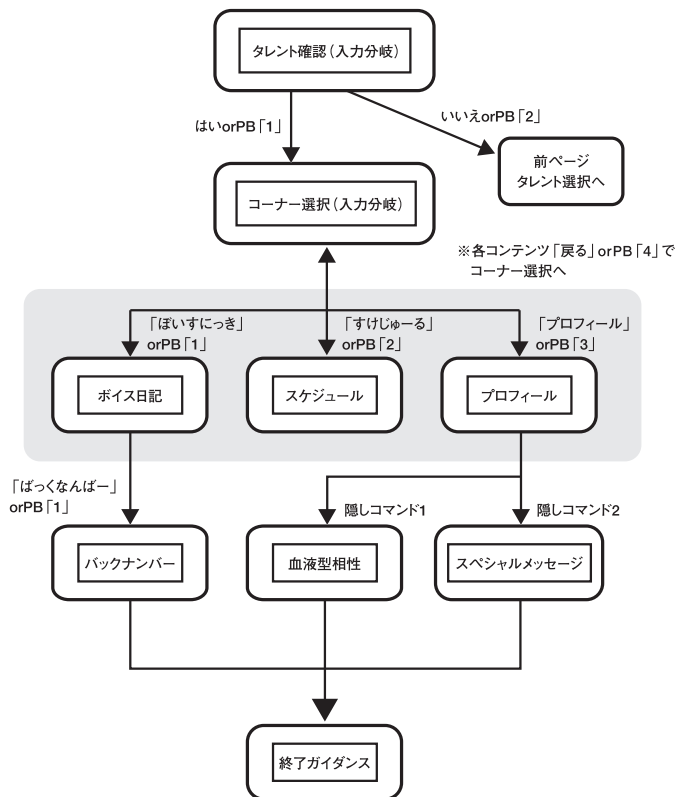
この意見に呼応するように、同社スーパーバイザーの徳岡まきさんは、「まだ、Vポータル自体が始まったばかりのメディアですから、そこでどのようなコンテンツが受け入れられるのかを考えるにはテレビの視点、ラジオの視点、雑誌の視点、そしてもちろんウェブの視点など、さまざまなメディアの視点で見なければいけない。たとえば『ウェブの視点』という方向からVポータルを見てしまうと、せっかく新しいメディアとして可能性を持っているVポータルをオールドメディア、つまりウェブの補完メディアとしてしか認識できなくなってしまう。いろんな視点でコンテンツを検証するためにも“とりあえずベーシックなコンテンツを公開してみる”意味は大きいですね」と説明してくれた。

Vポータルコンテンツは、人件費などを除けば、特に新しい設備投資をする必要もなく、きわめて低コストで制作できるという特徴を持っている。課金のシステムについても、いちから構築しなくてもすでに「通話料金からのキックバック」という形でシステムができていたのだ。これも、“とりあえずコンテンツを公開してみる”ということの助けにもなっている。

スーパーステーションはこれまでも多メディア上でデジタルコンテンツを制作してきた。つまり、その多メディア的視点から新しいメディアであるVポータルに殴りこめるという点が、同社の持っている最大の武器なのだ。

目指すは“アイドルOS”

では、その多メディア的視点を駆使して、「HOP CLUB」はどのようなコンテンツに変化していき、Vポータルならではのもの



スーパーステーションが手掛ける「HOP CLUB」のコールフロー。スタートメニューで「HOP CLUB」と言うと、5人のメンバーのうち誰のコンテンツを聞きたいかを選ぶガイダンスが流れる。そこから上記のコールフローにつながり、好きなメンバーの「ボイス日記」や「スケジュール」「スペシャルメッセージ」が聞けるのだ。今後は、「ボイス日記」などの部分のコンテンツが増え、ファン同士の声での「掲示板」など、コミュニティ的要素を追加したいとのことだ。

□ こんなかわいい子をVポータルで育ててしまおうぞ!



相澤優奈



真陽(まよ)



和希沙也



堀朱里



番ことみ

「HOP CLUB」

大手芸能プロダクション、ホリプロの大阪支社から誕生した5人組のアイドルユニット。名前の由来は「ホリプロ・オオサカ・プロデュース」の頭文字から採られたそう。現在は、関西を中心にテレビ、ラジオなどで活躍。ユニットとしてだけでなく、メンバーひとりひとりが個性を活かして「ピン」で活躍しているところなどを見ると、目指すは大阪版モー娘。か?

になるのだろうか。スーパーバイザーの徳岡まきさんは「まず、オープンソースOSとしてのアイドルを作るコンテンツにしたい」と語る。「そのOSとしてのアイドルをファンがVポータルを通して、自分でカスタマイズしていくようなコンテンツだと良いですね。Vポータルはそういう“育てる系”のコンテンツには向いているメディアだと思いますよ」。

さらに、取締役の田崎友紀子さんは「声のメディアだから、とにかく“生”な感覚をコンテンツ上で出したい。そのためには、スタジオで録音というよりも、ライブの楽屋で録音したりしてもいいなと思っています。さらに、その楽屋での“声”と、ファンが録音した応援の“声”を連携させて、コミュニティを作っていく。そして、そのコミュニティ自体がコンテンツになってい



(左)これが道場破りのオフィスだ。Vポータルコンテンツを作っているからといって、特に特種な機材などはないのだ。

(上)スーパーステーションはVポータルだけでなく、さまざまなデジタルコンテンツを手掛けている。

Jump www.superstation.co.jp

くというようなコンテンツになるといいですね」と言い、コンテンツの自己増殖も、Vポータルコンテンツを作るうえで絶対条件だと説明した。

スーパーステーションのVポータルへの

挑戦は始まったばかり。まずベーシックなコンテンツを公開して、試行錯誤をしながらも、Vポータルに最適なコンテンツを作っていくというスタイルが、キラーコンテンツへの最短の道なのかもしれない。



今日の道場破りから、コレを学びました！

Vポータルの世界に殴り込んでいる“道場破り”たちから、我々インターネットマガジンが制作しているVポータルコンテンツ「自分育てゲーム」に活かせるアイデアをパクろう……。いや、もとい勉強させてもらおうというこのコーナー。今回はNTTコミュニケーションズ技術部荒井がお送りします。ちなみにワシが誰だかわからない人は先月号までの「Vポータル企画道場」を読んでくれ。

さて、今回の道場破り、スーパーステーションの最大の武器は、なんといってもいろんなメディアでコンテンツを開発してきたという“経験”じゃな。我々のコンテンツは、

もしかしたら“雑誌”の視点からしかアイデアを出せていないのではないかと。ということは、いろんなメディアにかかわる人たちが制作に巻き込むことが重要じゃな。

実は、スーパーステーション取締役の田崎さんは大阪デジタル業界ではちょっとした“顔”で、御堂筋のように長く広いネットワークを持っている。我々も、インターネットマガジンが培ったネットワークを活かして異業種の人を巻き込みたいものじゃ。

ただし、“育てる”というコンテンツのキーワードは共通している。この方向性は維持していこうぞ、皆のモノ！

- 一、育てる要素はまちがっていない！
- 二、メディアミックス的視点をもっと重視！



続々道場破り中!



今日現れた道場破りたち紹介!

新しいメディアVポータル。現在、このメディアに殴り込んでいるコンテンツプロバイダーが続々と表れている。このコーナーでは、新しく登場した“道場破り”たちを紹介していくので、0570-0033-03に電話をして、彼らの活躍を聞いてみよう。電話をかけてスタートメニューと聞こえたら、ここで紹介したコンテンツ名を電話に向かって叫ぶのだ!

[長谷川恵美の「恵美っちルーム」]

10月25日に、CDデビューをたしたアイドル、長谷川恵美さんをフィーチャーしたコンテンツ。もともとはVポータルの「アイドルチャンネル」のひとつとしてオープンしていたが、人気が高くアクセス数も多いので、現在は独立したひとつのコンテンツとして楽しめるようになっているのだ。この「恵美っちルーム」では、長谷川恵美さんのプロフィールやメッセージが聞けるだけでなく、ゲームで勝つとアイドルからプレゼントがもらえたりもする。

おもしろいのは、コンテンツ

にアクセスするほど、長谷川恵美さんのポイントがアップするところ。「アイドルチャンネル」のアイドルの中でどれくらいアクセスされているかというランキングをウェブで見られる。



私たちが提供しています。

「恵美っちルーム」は所属事務所のゴーイングが提供している。握手会やイベントなど最新情報はVポータルでゲットしよう。

[まるまよみこ]

アップルコンピュータなどのホームページ制作から、インターネットビジネスの総合プロデュースなどを手掛ける会社、テクノピアが手掛けるVポータルコンテンツ。



私たちが作ってます。

「まるまよみこ」の制作、提供を担当しているテクノピアはインターネットビジネスでのマーケティングを主に手掛けている。

人気お笑いタレント「よみこ」のふたりが、ラジオ番組のような感覚でコンテンツを喋りまくる「電話で聞けるラジオ」だ。

自称“お笑い界のオシャレナンバー1”よみこの濱口優が気になるファッションに付いて語る「オシャレ泥棒」や、合コン王、濱口による合コンのしかたレクチャーコンテンツ「合コン指南」などがリスナーとのやり取りを交えて進んでいく。一方、相方の有野晋哉は、自分の部屋で野菜を育てて、自給自足していく様子をVポータルにて公開している。やっぱりこの人、地味だ。

Vポータルの中でも一風変わったコンテンツがこの「Mobile Sound」だ。

このコンテンツを利用するにはまず携帯電話で「Mobile Sound」を提供するアクセルの携帯電話用ホームページにアクセスし、そこから聞きたい音楽などのコンテンツを選ぶと、電話が自動的にVポータルへダイヤルして、Vポータルの音楽データベースから、選んだコンテンツが音声で流れて来るというサービスだ。

もちろん、聞けるコンテンツは音楽だけでなく、メッセージなど



私たちが作ってます。

「Mobile Sound」を提供するアクセルの開発者たち。アクセルは主に中小企業の情報化ネットワーク開発を担当してきた。

もあり、たとえば音声による“掲示板”といった形の使い方も見えてくる。このように、Vポータルは情報発信だけでなくコミュニケーションのプラットフォームとしても使われるのだ。



私たちが作ってます。

岩手は盛岡の会社、四次元。設立は2001年とまだ若い会社だ。主にホームページ制作などを手掛けている。

11月中にオープン予定のコンテンツが「釣リナビ」と「ポケットミステリー」だ。

開発担当は岩手県盛岡市に居を構える会社、四次元。岩手県ということで、「釣リナビ」では

東北地方の釣リ場情報などを週1回のペースで提供していく。「ポケットミステリー」は東北だからかどうかはわからないが、心霊体験談やホラーストーリーが聞けるコンテンツだ。

このほか四次元では東北地方の温泉ガイド、食べ歩きガイドなど地元密着型のコンテンツを、今後続々と提供していく予定。Vポータルは開発コストがほとんどゼロに等しいので、地方の比較的小規模な企業でもすぐにコンテンツを用意できるのも魅力。この点を活かしたVポータルコンテンツになっている。

[Mobile Sound]

[「釣リナビ」ポケットミステリー]



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp